

特集 平成26年 秋季集落座談会

～信頼される白神米の販売とブランド力強化を目指す～



9月9日から16日までの5日間、JAは秋季集落座談会を管内50会場で開催しました。座談会では、平成26年産米の集荷・販売方針やカントリーエレベーターの利用について協議が行われ、組合員から多くのご意見・ご要望を頂きました。このページでは、皆様から頂いたご質問とその回答を掲載いたします。

協議事項①

平成25年産米の統括及び平成26年産米の集荷・販売方針について

Q 米の概算金が予想以上に下がり、稲作農家の精算が困難な状況が予想されますが、JAは、救済策等検討しておりますか。

また、JAとしても国や県に対策を要望してほしい。

A 「稲作経営安定緊急対策資金」により、生産者の資金繰りを支援いたします。

また、JAグループ秋田全体で、秋田県並びに秋田県議会に支援要請を行います。

Q 年々、米の在庫が増えて、価格は下落していくことが予想されますが、JAでは今後の対策としてどのように考えておりますか。

A 国による隔離政策等が必要と考え、JAグループ全体での要請活動を展開します。

今年度はナラシ対策などの特例措置が講じられます。

Q 買取米の価格は、本当に業者より高い値段となりますか。

出荷予約の際、価格が業者より安ければ一般米へ変更できると説明されましたが、可能ですか。また、変更する場合の最終期限を教えてください。

A 現在の情勢をみながら最大限の価格を提示しましたが、一般米へ変更することは可能です。

また、変更をされる方は、出荷される際、倉庫・販売課へご連絡下さい。

Q 白神米が高く売れるように販売方法に工夫してほしい。

たとえば一般米と区分し、販売する〇〇米の販売など考えてほしいです。

A あきたe co ライス、CE米、特別栽培米など区分販売を行っております。

今年度は、新たに買取米を試験的に実施いたします。

